

試験研究成果普及情報

部 門	花 植 木	対 象	普 及
課題名：センチピ - ドグラスを利用した法面及び水田畦畔の雑草抑制			
[要約] センチピードグラスは、法面へは客土吹き付け施工法、既存畦畔への播種には条播法または散播法、セル成型苗の定植には生分解性マルチまたは光分解性マルチを用いることで定着が促進される。植物体の生育に伴って被覆率が広がることで、雑草の発生を抑制できる。			
キーワード（専門区分）雑草（研究対象）芝草 （汎キーワード）センチピ - ドグラス、雑草抑制、法面、水田畦畔			
実施機関名（主 査）農業総合研究センター生産技術部花き緑化研究室 （協力機関）千葉農業改良普及センター、山武農業改良普及センター （実施期間）1999年度～2003年度			

[目的及び背景]

省力管理の可能な水田畦畔・法面の緑化植物として、省力管理の可能な暖地型芝草（ノシバ、センチピ - ドグラス、セントオーガスチングラス）がある。これまでにこれらの草種について異なる土壌水分の傾斜圃場において生育特性を検討したところ、センチピ - ドグラスは乾燥条件でも安定して生育することが確認された。また、センチピードグラスは種子繁殖性のシバであり、法面・畦畔緑化し易い特長があることから、各種の播種法、及びセル成型苗を利用する場合のマルチ資材が、雑草の抑制程度に及ぼす影響を検討する。

[成果内容]

1. 切り土法面へセンチピ - ドグラス種子を客土吹き付け施工すると、雑草の発生は毎年確実に減少し、3年目にはほとんど発生が見られなくなる（図1）。
2. 既存畦畔へセンチピ - ドグラス種子を播種するには、条播法又は散播法で行うと、発芽・定着がよい。パルプ吹き付け法は、施工後の乾燥によって発芽、生育が安定しないために好ましくない（図2）。
3. 既存畦畔へセンチピ - ドグラスのセル成型苗を植え付ける場合、生分解性マルチ、または光分解性マルチ資材を用いると、雑草の発生が完全に抑えられ、苗の活着、及びその後の生育が促進される（図3）。

[留意事項]

1. 播種及びセル成型苗の定植に先立ち、非選択性除草剤で除草しておく。
2. 播種及びセル成型苗の定植は、降雨が期待できる梅雨期に行う。
3. 播種及びセル成型苗定植後の1年間は、雑草の発生が認められた場合、十分除草する。
4. 条播する場合は、条間は20cm程度とする。散播する場合は、播種前に地表面をレーキで耕起整地し、播種後に攪拌覆土して十分転圧する。播種量は、5～10g/m²とする。
5. 砂質土など窒素成分が少ないと判断される法面の場合は、発芽後化成肥料を窒素成分で4g/m²施用する。

[普及対象地域]

基盤整備後の法面、水田畦畔

[行政上の措置]

[普及状況]

養老川支流枝川（市原市佐是）で客土吹き付け施工を実施。千葉農林振興センタ - 管内（千葉市小食土町）及び山武農林振興センタ - 管内（大網白里町富田）で既存畦畔に播種、セル成型苗定植を実施。規模はいずれも約1000m²。

[成果の概要]

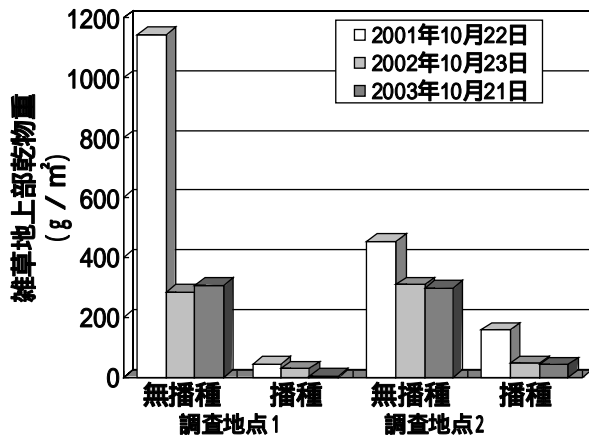


図1 客土吹き付け播種の有無と雑草発生量との関係

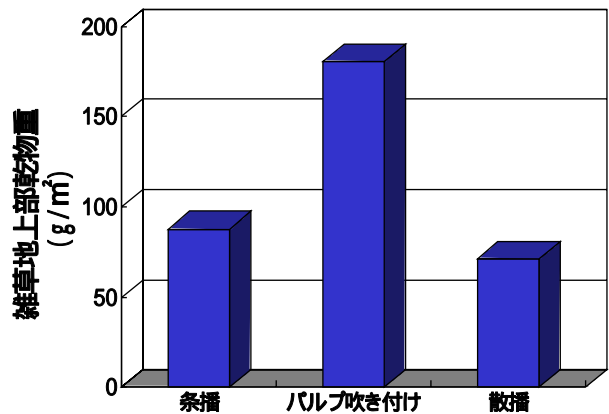


図2 センチピ - ドグラスの播種方法の違いと雑草発生量との関係（2002年10月29日）

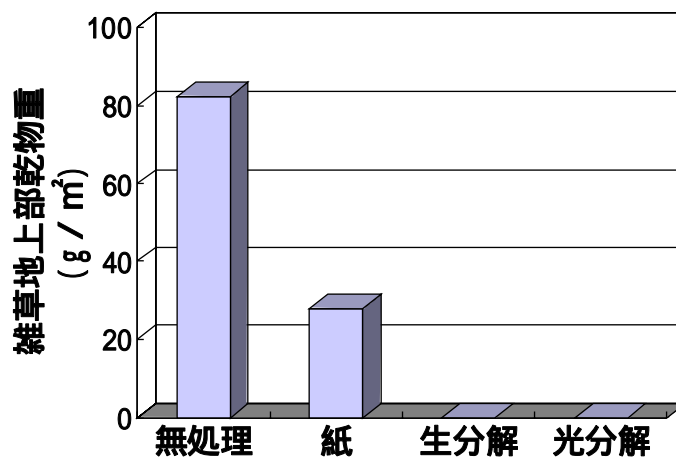


図3 セル成型苗定植時のマルチの種類と定植後の雑草発生量との関係（2003年10月23日）

[発表及び関連文献]

[その他]

平成10年度試験研究要望課題（提起機関：君津、安房農業改良普及センター）
美しい農村景観形成技術開発促進事業（平成11～15年度）

